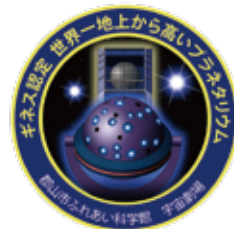


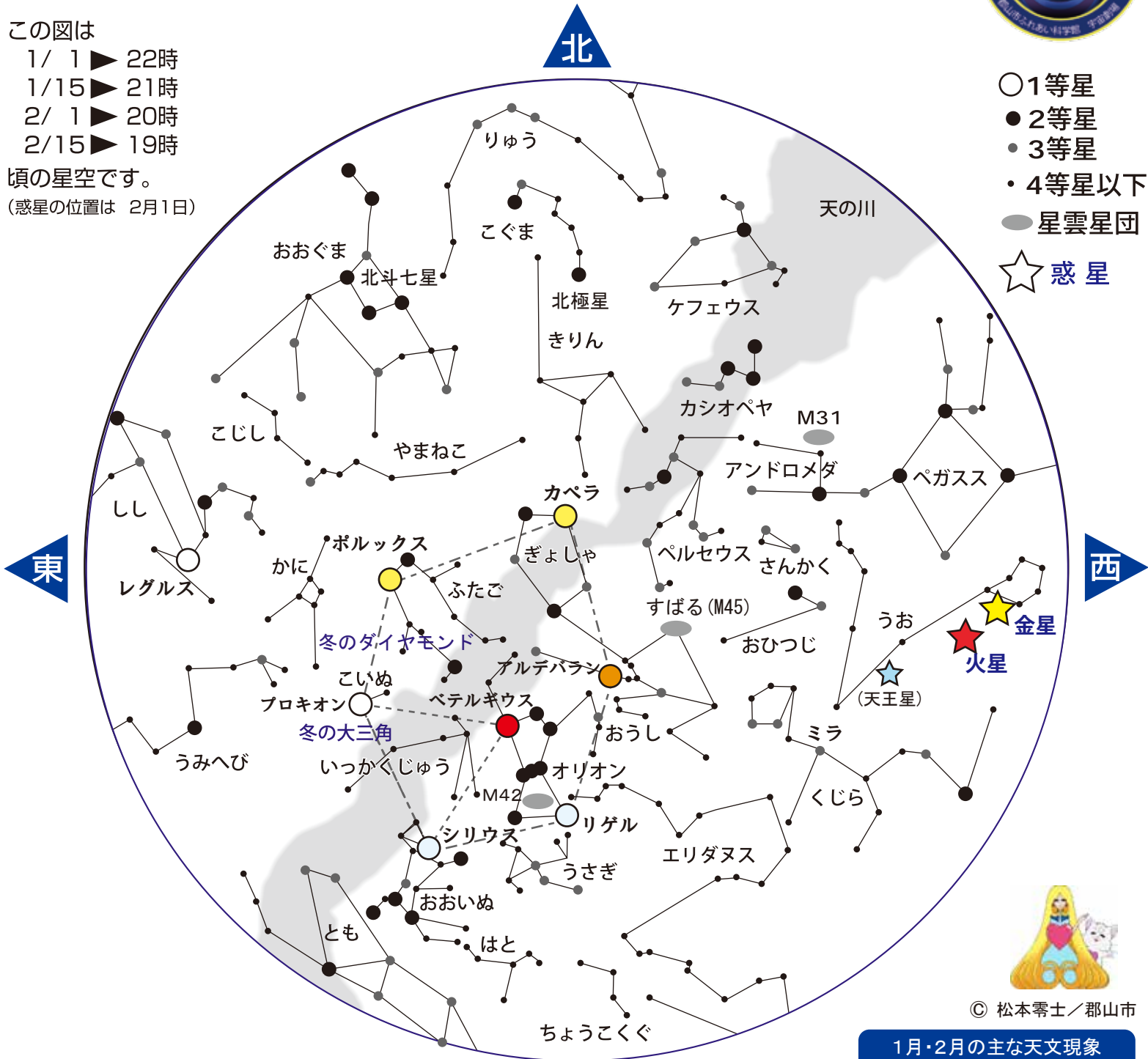
2017年

1月▶2月の星空



この図は
 1/ 1 ▶ 22時
 1/15 ▶ 21時
 2/ 1 ▶ 20時
 2/15 ▶ 19時
 頃の星空です。
 (惑星の位置は 2月1日)

- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下
- 星雲星団
- ☆惑星



© 松本零士/郡山市

郡山の日の出、日の入		
1/ 1	6:53	16:32
1/15	6:52	16:45
2/ 1	6:42	17:03
2/15	6:28	17:18

月の満ち欠け	
新月	1/28, 2/26
上弦	1/ 6, 2/ 4
満月	1/12, 2/11
下弦	1/20, 2/19

※上弦、下弦は半月です。
 ※天王星は肉眼では見えません。

1月・2月の主な天文現象	
1/ 3	しぶんぎ座流星群が極大
1/12	金星が東方最大離角
2/ 4	立春
2/17	金星が最大光度

この時期に注目したいのは、夕方の金星です。太陽から最も離れている(東方最大離角)状態の頃は21時近くまで見ることができ、2月中旬には最も明るく輝くようになります。金星の最大光度はマイナス4.6等級と、恒星で最も明るいシリウス(マイナス1.4等級)の約20倍の明るさです。なお、金星の近くには火星もあります。火星(プラス1等級)より100倍以上も明るくなります。その明るさと美しさから、金星は各地の神話に登場する女神の名前で呼ばれました。金星の英語名「ヴィーナス」は、ローマ神話の愛と美の女神「ウェヌス」が由来です。日本では、夕方に見える金星は「宵の明星」の呼び名で古くから親しまれています。夕方の西の空で一番星として輝く様子をぜひご覧ください。

南の空では冬の星が見頃を迎えています。冬の星座には街中でも見つけやすい1等星が7つあります。この1等星たちには明るさや色の違いがあり、白や黄、赤など、それぞれの星が持つ表情の違いをお楽しみいただけます。また、オリオン座の「ベテルギウス」とおおいぬ座の「シリウス」、こいぬ座の「プロキオン」を結ぶと、「冬の大三角」になります。1等星でできる星の並びは探しやすい、初めて夜空を見上げる方にもおすすめです。寒さが厳しい季節のため、十分に暖かい服装でお出かけください。

